



図1-4-11

図1-4-113 [管理] → [ビュー] → [フィルタ]

図1-4-11

たとえば、図1-4-113のような画面でビューやアカウントに設定するフィルタは「データそのものを集計対象にしない」という特徴があるため、フィルタを変更しても元々のデータを集計することはできません。

一方、表示データをその場で絞り込める「アドバンス フィルタ」という機能もあります。同じ表記なので少し複雑ですが、まったく異なる機能です。こちらは、表示しているデータを簡易的に絞り込むための機能です。

ページタイトル	セッション数	ユニークユーザー数	セッションあたりのページビュー数	セッションあたりのユニークユーザー数	セッションあたりのページビュー数	セッションあたりのユニークユーザー数
1	17,527	6,870	00:00:43	1,760	30.32%	11.60%
2	6,888	4,488	00:00:27	7,228	30.47%	9.88%
3	6,225	3,276	00:00:26	767	41.77%	12.67%
4	1,380	684	00:00:28	48	44.64%	11.64%

図1-4-12 表示データをその場で絞り込める「アドバンス フィルタ」

図1-4-12

図1-4-114は、すべてのページから「ウェブ解析士の試験・スケジュールに関するページだけを見たい」といった場合に、ページタイトルで絞り込んだものです。「その場でサクッと絞り込んで見てみたい」といった場合に使います。「アドバンス」という言葉は「詳細」と認識しておくとうわかりやすいかもしれません。

Adobe Analyticsでは、レポート表示の項目としてフィルタを行うことが可能です。そのほか、集計データ全体をさまざまな条件やセッションの設定を変更、フィルタリングし、別のレポートを作成するバーチャルレポートスイート機能を利用することも可能です。

### セグメントとフィルタが混乱しやすい場合

「データを簡易的に絞り込めるフィルタ」と「セグメント」は、どのように違うのか疑問に思ったかもしれません。「データを簡易的に絞り込めるフィルタ」は、その画面(ページ)のみで有効ですが、「セグメント」は絞り込みを保ったまま、ほかの画面(ページ)にも移動できるというメリットがあります。また、同じようにデータを絞り込んでも、